



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

No. 3879
93.10.22

解雇撤回・清算事業団闘争に 勝利しよう!

一〇月一四日付・朝日新聞に「北海道・大阪のJR採用差別事件・中労委で年内にも初命令」との記事が掲載された。

われわれは、いよいよ解雇撤回・清算事業団闘争勝利の闘いが正念場を迎えていることを緊張をもって確認しなければならぬ。

今回の報道内容は、「中労委が十一月一〇日に労使双方の参与委員の意見陳述を求めるとされ、「通常の手続きによれば、意見陳述から約一カ月間で命令が出される」とされている。しかし、われわれがはつきりとさせなければならぬ点は、今日の敵の側の清算事業団闘争に対する構え方である。

中労委は、昨年五月に労働委員会の任務を放棄したとしか言いようのない解決ならざる「解決案」なるものを提示した。要するに清算事業団労働者を切り捨てる内容である。続く六月、千葉地裁は動労千葉の二名の仲間に対し「請求棄却」の反動判決を下した。つまり敵は、JR復帰などありえないとしているのである。

八月に細川連立内閣が発足した。では、それに期待はできるのか?断じて否だ。国労はこの間、解雇撤回を求め、社会党出身の伊藤運輸大臣のところへと陳情にいつているが明確な回答は出てはいない。それどころか、三里塚闘争に対する伊藤の対応を見ても明らかかとおり、社会党は連立内閣の下で屈服を重ねているのだ。

敵の狙いは、「国労を屈服させる。連合に引きづりこむ。」ということであり、連合も国労の屈服を引き出すためにさまざまな策動を行っているのである。

そのような状況から、中労委命令がけっして期待できるものではないことは明らかだ。石川前中労委会長は「解決案」提示後の記者会見で、「死んでも言えないことがある。」と涙を浮かべていたそうだが、まさに敵は総ぐるみで国鉄労働運動つぶしを狙っているのだ。

正念場を迎える解雇撤回・清算事業団闘争の勝利を何としてでももぎとりよう!

11/3 第15回 運動会 団結運動会

家族そろって集まろう!



組合員・家族・OBの親睦

場所
弁天小中学校
JR千葉駅北口徒歩3分
9時ヨリ

反合・運転保安確立! 反戦・反核を担う労働運動を!